



[www.muratec.jp](http://www.muratec.jp)

村田機械株式会社

〒612-8686  
京都市伏見区竹田向代町136

設立:1935年7月

#### インタビュー:

繊維機械事業部  
事業計画室 室長  
大橋真太郎 氏

繊維機械事業部  
ドキュメントチーム  
澤村真梨 氏  
高倉優子 氏  
山本和泉 氏

#### ソリューション

Trados Studio  
(翻訳支援ソフトウェア)

## 村田機械株式会社、13ヶ国語への展開納期とコストを半減!

村田機械株式会社は、Trados Studioの活用で翻訳業務のベストプラクティスを確立し、13ヶ国語への展開納期とコストを半減しました。

世界中の紡績会社で採用される高性能で最先端の繊維機械を提供する村田機械株式会社 繊維機械事業部では、取扱説明書の多言語展開に Trados Studio (以下Trados) を採用 されました。翻訳を依頼している多くの企業で利用されていること、InDesign対応による 利便性、そして優れたコストパフォーマンスを評価いただき、Trados導入後、2年ほどを かけて13ヶ国語への同時展開を実現しました。現在では、同社製品の保守・サポートシステム「MSS (Muratec Smart Support)」のコンテンツの一つである現地語のFAQ作成にも Tradosが活躍しています。

#### 導入の効果

- 品質を維持しながら納期を半減
- 作業工数を大幅に削減しコストを半減
- MSSのコンセプト実現をサポートし事業戦略を推進

村田機械株式会社は日本の繊維産業の隆盛期であった1935年に京都で創業しました。以来、世界初の技術であるエアで糸をつなぐ「マッハスプライサー」や、従来の概念を覆す画期的な製法による糸づくりを実現した「ポルテックス精紡機」など、革新的な技術開発で世界の 紡績機械業界をリードしてきました。繊維機械だけではなく、ロジスティクス・オートメーション、クリーンFA、工作機械、情報機器など多角的な事業を展開しています。

### グローバル企業が寄せるTradosの実績と利便性への期待

海外への輸出比率が90%を超える同社の繊維機械事業部は、これまで90ヶ国に製品を納入してきました。そのため多言語対応には30年ほど前から取り組んでおり、複数言語の翻訳体制は整っていました。しかし最近では、取扱説明書以外に、GUIやトラブルシューティングなど、新たなコンテンツのニーズが増え、翻訳に関わる作業負荷が増大しています。

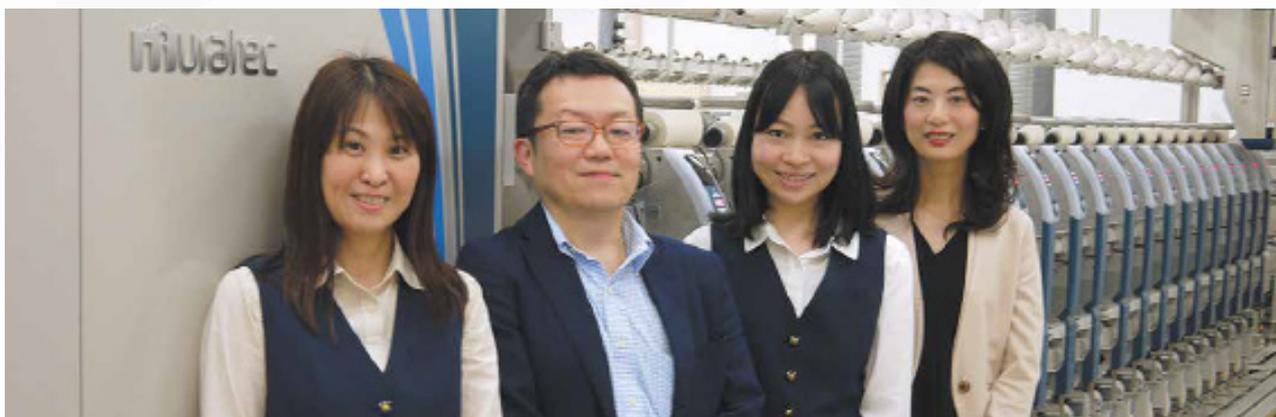
その作業効率改善を図り、Tradosを導入したのは2013年。それまで同社の取扱説明書の製作工程では、過去に翻訳されたPDF文書から同一の文章を転記し、翻訳する量を減らしたうえで翻訳会社に依頼していました。しかし、コストセーブのためとはいえ、コンテンツが増えるにつれその作業負荷が増し、業務の見直し機運が高まってきました。「お願いしていた翻訳会社でTradosを使っており、以前からあったら便利だろうなと思っていました。品質向上とスピードアップができればと考えました」(繊維機械事業部ドキュメントチーム 高倉優子氏)。

### InDesignとの相性と業界標準であることを評価

Tradosを導入検討する過程においては、他社製品との比較が行われました。

「決め手となったのが、InDesignとの相性です」と、高倉氏は強調します。日本語の取扱説明書をInDesignで組み上げると、英語に翻訳しても同じレイアウトで仕上がってきます。これは他の言語でも同じ。「再度レイアウトを組み直す必要がなくなり、これはありがたい!と思いました」(高倉氏)。

また、翻訳を依頼している企業の多くがTradosを利用しており、Tradosを介して作業をスムーズに進めることができます。「業界標準なのだろうと思います。Tradosであれば自由度を保つことができ、製品のバージョンアップに伴い利用できなくなるといった制約もありません」(高倉氏)。導入決裁する立場からも「費用対効果の大きさを考えると、リーズナブルな価格も魅力的でした」と大橋氏は補足します。



### Tradosは顧客サポート拡充にも貢献

導入してしばらくは試行錯誤を重ね、自社の運用フローを確立できたのは1年ほどしてから。「Tradosの講習会に出たり、相談を重ねたりして、まず英語版での展開に成功しました」（高倉氏）。

Tradosの活用で大きな転機となったのは、2015年に同社が出展した繊維機械の展示会。MSSとは「Muratec Smart Support」の略で、村田機械独自のIoT技術を活用した顧客サポートシステムです。機械とスマホやタブレットをインターネットで接続し、同社の機械が持つさまざまな情報にスマートデバイスからアクセスを可能にし、稼働状況や各種メンテナンス情報、FAQをスマートデバイスから参照できるシステムです。

発表後すぐに評判となり、2017年からの販売開始を決定。10カ国語同時リリースされることになり、それに合わせてFAQの多言語展開も必要になりました。「全FAQとなると、A4にして1,000ページに及びます。Tradosなしには実現できないと思い、海外拠点にもTradosを導入しました。」と、高倉氏は語ります。

澤村真梨氏は「Tradosを導入した結果、翻訳スピードは格段に上がりましたが、ドキュメントの数が多かったのでそれぞれの進捗状況を把握することには苦労しました。Tradosでの翻訳体制が整った今、拠点からもTradosが便利だという声もあり、業務に欠かせないツールとなっています。」と語ります。

### 翻訳品質を上げながら、翻訳作業の納期とコストを半減

「Tradosの効果は品質の担保にあります」（高倉氏）。以前は、似たような文章を過去に作成したPDF文書内から探し出すか、新たに翻訳するかのどちらかの方法で進めていたの で、翻訳にバラツキが生じてしまいましたが、Trados導入後は、用語や文体が統一され、翻訳の品質を上げることができました。一度完成すると、バージョンアップした際にも同等の品質が保証されます。人的に起こるミスもTradosが解消してくれます。

納期に関しても、Trados導入前は、日本国内で最終レイアウトを完成させてから翻訳を開始し、海外拠点スタッフにチェックを依頼していました。導入後は、日本語の最終レイアウトが決定する前に、日本語の編集を進めながら、同時に多言語の翻訳を進めることができます。「これで納期が半減し、コストの削減にもつながりました」と、高倉氏は笑顔を見せます。「何よりもこのスピードが、MSSの早期立ち上げにとってありがたかった。世界中のお客さまへのサポート品質向上を実現するMSSは、当社の事業戦略の一つです。その一端を Tradosがサポートしてくれています」と、大橋氏はTradosを高く評価します。

日頃、Tradosを利用する同チームの山本和泉氏は「わたしは技術者ではないのでものづくりには参加できないと考えていました。しかし、Tradosにより『言葉』という形でものづくりに参加ができ、光栄に思います」と語り、同社の事業戦略の中でTradosがその一翼を担っていることを物語っています。

### ビジネス拡大に伴い、Tradosへの期待と共に要望も

更なる業務効率を向上させるための要望もあります。グローバルビジネスにおける拠点単位での進捗管理は重要かつとても煩雑なもの。大橋氏は「プロジェクトの規模が大きくなると、全体の把握が難しくなっていきます。なんらかの形で工程管理ができればと思っています」と更なる提案に期待しています。

RWSは、今後もオンライン翻訳管理システム「Trados GroupShare」をはじめ、同社へのビジネス展開におけるコミュニケーション支援を行っていきます。

## その他RWSのケーススタディはこちら:

[rws.com/jp/customers](https://rws.com/jp/customers)

### RWS Holdings plcの説明の定型文

RWS Holdings plcは、テクノロジーを駆使した言語サービス、コンテンツサービス、知的財産サービスを提供する、唯一無二のリーディングプロバイダです。当社はコンテンツの変革と多言語データ分析を通じて、テクノロジーと文化に関する専門知識を独自に組み合わせ、お客様がどこでも、あらゆる言語で理解されるようにすることでビジネスの成長をサポートします。

当社が目指しているのは、グローバルな理解の実現です。文化の理解、企業の理解、技術の理解を組み合わせることにより、当社のサービスとテクノロジーが、顧客の獲得と維持、魅力的なユーザー体験の提供、コンプライアンスの維持、データやコンテンツにおける実用的なインサイトの獲得など、お客様をさまざまな面でサポートします。

当社のお客様には、世界の大手ブランド上位100社のうちの90社、製薬会社上位20社、大手特許事務所上位20社のうちの19社が含まれています。クライアントベースは、ヨーロッパ、アジア太平洋、北南米に広がっています。自動車、化学、金融、法律、医療、製薬、テクノロジー、電気通信の各分野を網羅しており、5つの大陸に展開した80を超えるグローバル拠点からサービスを提供しています。

1958年に設立されたRWSは、英国に本社を置き、AIM、ロンドン証券取引所規制市場に上場されています (RWS.L)。

詳細については、[www.rws.com/jp](https://www.rws.com/jp)をご覧ください。

© 2022 All rights reserved. ここに記載されている情報は、RWS Group\*の機密情報および専有情報とみなされます。

\* RWS Groupとは、RWS Holdings PLCおよびその関連会社および子会社の代表を意味します。